

## ドイツ雑感：共同研究を通して

カートハウス研究室

清野 裕司

私は、平成23年の2月17日より3月18日までドイツ、ポツダム大学へ交換留学として行かせていただきましたカートハウス研究室の清野と申します。このコラムを通じて学生の皆様に外国への興味を持っていただければと思います。

留学しましたポツダム大学はベルリンより電車で40分程度にあります。市内には旧プロイセン時代の宮殿や古い街並みが複数点在しており、ドイツの奈良ともいえる観光地であります。また、ポツダム会議がなされた宮殿、トゥルーマンが原爆投下を決断した宿舎もあり、日本とは少なかる縁がある土地です。

さて、外国で生活するに当たり当然日本との違いがございます。例えば、ドイツでは公共交通機関の中で飲食ができませんし、日曜日にはスーパーマーケットを含む多くの店が閉まります。これは日曜日は家族で集まる日というキリスト教の教えから来ているそうです。他にもトイレに入るにもお金がかかりますし、カラスは黒と灰色のツートンカラーになります。さらに、海外で生活すると気づくのは物価が安さです。例えば、チーズ500g 300円、食パン一袋70円。全て20%位の消費税込みでの価格です。食品以外では、私が利用した3G携帯データ通信サービスは30日間15ユーロの定額で済みます。

研究生の話をしていきますと各研究室、ビールとミネラルウォーターが最低3~4ケースは常備されています。研究室は大学院生以上がいる場所であって私がお世話になったところでは大学院生以上のメンバーが30人近く居りました。ちなみに学部生は別のところで実験練習を行っています。これはドイツの大学がすべて公立大学でありかつ授業料がかからないため大部分の大学生が博士まで行くことが根幹にあると思われま

す。研究のなかでは日本の研究室では問題なく作ることができたものが、ドイツではうまくいかず非常にあせる経験をいたしました。原因は購入した薬品の品質が悪く別の反応が生じてしまったためです。予備で購入していた材料を使うことで実験自体は問題ございませんでしたが、留学に限らず学生の期間は限られております。失敗しても次の手を考えておく癖を化学系の方は特に持っていたきたいです。

最後に海外に行くときに、学生の皆様が最も心配になるのは言語の問題ではないでしょうか。私はほとんど英語の勉強をしたことがない人ですが、その程度の英語でもドイツではほとんどの方に通じます。さらに現在はGoogleの翻訳機能等がございます。これらを使って自分の意思を示す単語を言い合うだけでも意見交換は可能です。

是非とも海外を恐れず、挑戦をして頂ければと思います。